

# 進修館だより 交流マップ

進修館だよりを通じて交流させていただいている皆様を  
マップに掲載していく形でご紹介します！



**■ 新しい村 育苗施設**  
新しい村の育苗施設では、種もみを田植えができる苗に育てています。今年は200ヘクタール分の苗が出荷され、宮代町内に田植えされました。施設の一部は進修館を設計した象設計のグループが手掛けました。



- 町外の皆様**
- ・(株)彩和とらすとサービス(白岡市小久喜)
  - ・杉戸町障がい者支援センター(杉戸町清地)
  - ・日の出(幸手市中)
  - ・(株)あおば保険事務所(春日部市中央)
  - ・白田陽介税理士事務所(久喜市久喜東)
  - ・CAFE パロキア(久喜市菅浦町)
  - ・入間市文化創造アトリエ AMIGO!(入間市仏子)
  - ・象設計集団 東京事務所(東京都狛江市)

- 配布などご協力いただいているの方々**
- ・ふれあいクラブ(宮代町宮代台)

**■ 進修館だよりで交流させていただいている自治会をご紹介します！(50音順)**

- ・内野
- ・笠原2丁目町会
- ・川端一区自治会
- ・川端二区自治会
- ・川端三区自治会
- ・逆井地区
- ・新中町会
- ・新道三区町会
- ・新道第一町会
- ・新道第二町会
- ・辰新田町内会
- ・中央第1町会
- ・中央第2町会
- ・道佛1区
- ・中須地区
- ・中寺地区自治会
- ・東桑原自治会第1地区
- ・東桑原自治会第2地区
- ・姫川二区自治会
- ・宮代1丁目1町会
- ・宮代1丁目第2町会
- ・宮代学園台自治会
- ・宮代台自治会
- ・山崎
- ・柚の木二区自治会
- ・和戸1丁目町内会
- ・和戸2丁目1
- ・和戸2丁目2区
- ・和戸3丁目
- ・和戸4丁目1区
- ・和戸4丁目2区
- ・和戸5丁目地区



Community Center Shinsyukan

# 進修館だより

2022  
7月号

進修館共催事業のお知らせ

## ひとりがたり「1950年のバックス」

宮代町のおとなり杉戸町在住の作家 北村薫氏の感動作を、  
プロフェッショナルによるひとりがたりでお楽しみいただきます。



あらすじ

鮎子の息子・翔太は小学3年生になり、野球チームのレギュラーになった。鮎子は野球のルールすらよく理解していなかったが、懸命にがんばる息子のために試合についていっては準備を手伝う。そんなある日、夫の母親(翔太の祖母)が野球の試合を見に来ることになった。野球などに縁もゆかりもなさそうに見える義母だったが、予想に反して、鮎子が知らない野球のルールを詳しく説明する。そればかりか、祖母の口からは思いもよらぬ過去が語られ始める。

ひとりがたりは、ご覧くださる方々の想像と共にある表現です。ご家族で、お孫さんと一緒に、お友達を誘って、カップルで、世代を超えて楽しめる物語で夏のひとときをお過ごしください。

夏休みの読書感想文はこれで決まり！

日時：2022/08/20(土) 15:00～(14:30開場)  
場所：小ホール  
参加費：一般 2000円 / 進修館ファンクラブ 1500円  
大学生・専門学校生 1000円 / 高校生以下 500円  
(当日各+500円、当日券の販売は前売り状況によります。)  
※誠に恐れ入りますが、就学前の方のご来場はご遠慮ください。  
問合せ・チケット販売：進修館1F受付(ボランティア室) 0480-33-3846

★限定10名様★ 上演後、進修館スタッフの説明による館内見学を実施  
チケット代+¥250(パンフレットなども案内資料も提供) ご希望の方は申込み時にお伝え下さい。



進修館だより 2022年7月号(第16号) 第2版：2022/07/08 発行  
発行元：宮代町立 コミュニティセンター進修館  
(指定管理者：特定非営利活動法人 MCAサポートセンター)  
住所：〒345-0822 埼玉県南埼玉郡宮代町笠原1-1-1 TEL：0480-33-3846  
URL：https://www.shinsyukan.or.jp E-mail：info@shinsyukan.or.jp



# 「町民まつりについて語り合おう！」を開催しました。

1つのテーマについて参加者みんなで話し合う「進修館オープンカレッジ」の第1弾、テーマは「町民まつり」でした。昨年度に開催を予定して参加者を募ったものの、「話し合うなら対面で」と考えていたこともあり、コロナの影響を受けて延期につぐ延期となりました。緊急事態宣言が明け、ようやく3月25日から5回にわたって開催することができました。



参加者からは、「意図しなければ会うことができないような様々な属性の人たちと、1つのテーマで話ができて楽しかった」「町民まつりの世話人の方から話を聞くことで、町民まつりの歴史や運営するための努力を知ることができた」などの感想の他、「話し合ったことがどのように実現していくのがわからず、モヤモヤしてしまった」「参加者が入れ替わることもある中、自己紹介が少なくてもどのような人がいるのかわからず、意見が言いにくく感じることもあった」等のご意見もいただきました。

話し合いの中で出されたアイデアをもとに、8月21日に開催される第39回町民まつりの実行委員になる方もいらっしゃいます。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

## みんなの広場から

2階ロビー横敷側に開放されている「みんなの広場」の担当者が様々な情報をお届けします！

こんにちは。みんなの広場です。

5月28日（土）11：00～12：00、進修館2階ロビー「みんなの広場」において、第3回利用者懇談会を開催しました。今回は日本工業大学の学生（交流拠点が研究テーマ）2人と町内で活動されている方も参加していただき、いろいろなお話ができました。

### 【ご意見の内容】

- ・今回も進修館は以前と比べて敷居が高くなったように感じるというご意見があった。
- ・2階に新しい窓口ができ素敵だと思ったが、初めての時入ってはいけないスペースだと感じて入るのをためらってしまった。一方、反対のスペースはぶどうの樹があり、コーヒー等を頼まないと思いがちな気が引ける気持ちになる。
- ・姫宮・和戸から進修館は年配の人からすると遠い場所で素敵な催しがあってもどうしても足が向かなくなってしまうので、出前コンサート出前講座があると良いと思う。
- ・進修館の照明の電気使用量が通常の建物の7倍であると聞いたが本当か。

今回は、一般の方も進修館等の色々な面に関心があることに気づかされました。なお照明の電気使用量については、今はほとんどLEDに変えているので、半分から1/7になっています。

### 《7月の利用者懇談会》

日にち：7月23日（土）  
時間：11：00～12：00  
場所：みんなの広場



### 《お話を聴くのひと時を「能を楽しむ」》

日にち：7月28日（木）  
時間：10：00～11：30  
場所：みんなの広場



## 皆様からの声をお届け！

進修館だよりを通じて交流させていただいている皆様の声をお届けするコーナーです。

姫宮駅の東口周辺にひろがる川端地区は、大落古利根川や姫宮落川が流れる、静かな住宅街です。その中の川端1区長を務める佐野好一さんにお話を伺いました。

### 質問1 「佐野さんから見た進修館の印象は？」

- ・宣伝不足なのかもしれないが、進修館の魅力があまり知られていないように感じる。いいものなのに使いきれていなくてもったいない。
- ・外観も変わっているので「映え」がする。コスプレが撮影に来るのもわかる。それを日常の中で来られるようにすれば、もっといいのと思う。
- ・自分が一番使っているのは印刷機。個人的に施設を利用することは、ほとんどない。会議に参加するときには利用することはある。川端地区から遠いから、という訳ではない。車で10分、電車でも1駅なので、遠いという意識はない。
- ・進修館では、文化祭で展示物を観たり、町民まつりで飲み食いをするのがとても楽しい。

### 質問2 「今後の進修館に、どのようなことを期待しますか？」

- ・もっと進修館を訪れる人が増えるようにして、知ってもらったらいと思う。東武動物公園へ行くルートのひとつとして進修館の中を通っていただくなど、訪れるきっかけになったらいいのではないかな。
- ・色とかニオイとか光とか、入口を印象付けるような何かをすれば、引き寄せられて中に入るのではないかな。
- ・進修館自体をギャラリーのようにして、光路や回廊に写真や絵などの作品を展示するといったのではないかな。最初は固定客かもしれないが、人が人を呼んで訪れる人が増えてくるのでは。
- ・何かのイベントで飲食できると楽しいが、日常の人がいないときに飲食の販売をするのは難しいだろうと思う。屋外で楽しめるカフェがあってもいいと思うが、欧米などとは文化が違うから続けるのは難しいのかもしれない。歌手を呼んでイベントをしても、日常的な賑わいではないし…。むずかしいねえ。



佐野さんは山梨出身で宮代町に住んで40年以上。かつては鉄道会社で駅の設計に関わる仕事をしていました。埼玉高速交通ができる際は川口元郷～浦和美園までの全7駅のデザインの提案に関わりました。



インタビューに伺った川端集会所には、賞状・盾・トロフィーがたくさんありました。特に多かったのは町民体育祭。毎年地域で練習を重ね、当日は思う存分楽しんだとのこと。終わってからは慰労会もあり、親睦を深めたそうです。



インタビューの中で、佐野さんは「地域のコミュニティ」という言葉を何度も使っていました。

町民体育祭などの行事に地域で出場し、その競技の事前練習を通してコミュニケーションを深め、当日は大いに盛り上がるそうです。また、地域の子どもたちが自分の暮らす場所で楽しい思い出ができるように、と公園の定期的に整備を行い、夏には地域総出で祭りを開催するなど、地域の人同士が楽しみながら交流する機会を提供しています。集会所に飾られた賞状やトロフィーは、こうした地道な活動の軌跡でした。

日頃の交流の積み重ねが、いざという時に支え合える地域のコミュニティを醸成していくのですね。